



[本校] 〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1
tel. 025-239-3111 fax. 025-239-3690
[新潟中央キャンパス] 〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169
tel. 025-227-7111 fax. 025-227-7117
🌐 <https://www.nuis.ac.jp> ✉ somu@nuis.ac.jp



希望に胸ふくらませ 5カ国へ60人

2・3面

開学25周年記念

特別講演会とシンポジウム

4面

国際化フォーラム「地域と共に!未来へ」

5面

5大学が中小企業団体と協定 協働事業で産学連携へ

8面

編集部では表紙を飾る写真を募集しています! 投稿方法は nuischannel@nuis.ac.jp までお問い合わせください。

CONTENTS

4面

オープンキャンパス
2019案内

5面

スポーツ大会
韓国・光云大学から留学生

6・7面

ズームアップ研究室 心理学ゼミ

プログラミング体験に400人
やすらぎ堤 川まつり
2020年度 入試日程概要一覧
湧源
教員の活動

8面

英語検定
「文部科学大臣賞」を2年連続受賞
「G20新潟農業大臣会合」に
ボランティア参加



NUISホームページ
<https://www.nuis.ac.jp>
(スマートフォン対応)



Facebookページ
<https://www.facebook.com/nuis.face>



LINE@
[@nuis-line3111](https://line.me/tv/add/nuis-line3111)
LINEの「友だち追加」から
「ID検索」で登録



Twitter
[@nuis_nabbit](https://twitter.com/nuis_nabbit)



YouTube
公式
チャンネル

5カ国へ60人



野崎茂学長が留学奨学金証書を手渡しました

8月4日から出発

アメリカコース

英語を磨き世界を広げる

佐藤 英泰（国際文化学科2年）

今年、英語集中コースの学生16人が、米国のセントラル・ミズーリ州立大学へ4カ月の留学します。私はこれまで日本を離れたことがなく、この留学が海外を訪れる最初の経験になります。結果如何は自分の努力次第、ということにだけは分かっている一方で、この留学を楽しめるかどうか、どれだけ自分の英語力を向上させられるか分からず、正直少し不安な面もあります。

しかし、いま私の心は期待に満ちています。私は人見知りで内向的なので、この留学を通して、もっとポジティブで積極的な人間になりたいのです。

私はこの機会を通して、様々なことに全力を尽くしたいと思っています。できるだけ多くのことを学び、チャレンジをしたいと思っています。特にコミュニケーション能力を磨いて新しい世界に飛び込みたいので、先生方、スタッフの方、地元の方々や新しくできる友人たちと、多くの関わりを持ちたいと思っています。なぜならこの留学が英語だけでなく、学び、成長し、心身ともに成熟するよい機会だと確信しているからです。

留学生の皆さん、私たちはメンバー全員一つのチームです。お互いに助け合い、問題が生じたら一緒に乗り越えていきましょう。この貴重な機会を通して、自分自身の世界を広げていきましょう。

最後に教職員の方々、家族に最大限の感謝の意を表したいと思っています。（編注…発表は全て英語）

ロシアコース
交流を通して国際感覚を
高橋 勇晟（国際文化学科2年）
私が皆さんにお伝えしたいことは、深い感謝の気持ちです。日々私の学習を支えてくださっている教職員の方々はもちろん、この度の奨学金の授与、この制度を支えてくださっている多くの方々にも感謝しております。

私がロシア語を選択した理由は、履修コースの選択者が一番少なく、そこに私の反骨精神がくすぐられたからです。実際に学んでみると、新しい言語を学ぶにあたり予期していた難しさはなく、先生方が親切でとても学びやすく、上質な環境でのびのびと学習に励むことができました。

留学では語学の上達はもとより、ロシア人をはじめ現地に在留する外国人とも積極的に交流し、国際感覚を研ぎ澄ませていきたいです。帰国後は習得した言語や国際知識を活用し、ボランティア活動などに活かせるよう、しっかりと勉強したいと思っています。

派遣留学（国際文化学科）と海外夏期セミナー（経営学科、情報システム学科）に参加する学生の壮行会が6月19日、本校みずき野キャンパスの国際交流センターで開かれました。令和元年度の今年はアメリカコース16人、ロシア6人、中国11人、韓国16人、カナダ11人の合計60人が参加。8月4日に出発するカナダ夏期セミナーを皮切りに年末まで、1〜4カ月の海外生活を体験していきます。

壮行会では留学奨学金の授与式が行われ、各コース全員の名前が読み上げられた後、代表者に野崎茂学長が奨学金証書を手渡し、「異文化交流を楽しんでほしい」と激励しました。各コース代表が「語学のスキルアップを」「視野を広げたい」などと抱負を述べ、続いて行われた懇親会では、参加者が思い思いの夢と希望を語り合いました。



アメリカ セントラル・ミズーリ州立大学



ロシア ウラジオストク国立経済大学



中国 北京師範大学



韓国 慶熙大学校



カナダ アルバータ大学

派遣留学 夏期セミナー

希望に胸膨らませ



国際交流センターで開かれた壮行会で派遣留学と夏期セミナーのメンバーが集合

韓国コース

各地巡る現地学習に期待

石本 純也（国際文化学科2年）

私たちは9月から韓国の慶熙大学校に4か月間留学し、韓国の言語や文化に直接触れ、多くのことを学んできました。

言語の面では、現地のネイティブな発音に日常的に触れて、語学力および聞き取る能力の向上に力を入れたと考えています。また、日本では感じられない韓国ならではの文化を感じるとともに、自身のスキルアップに努めたいと

思っています。

学校生活には食事など少し不安な面もありますが、私たち一人一人に慶熙大学の学生がサポートとしてついてくれる「トウミ制度」があり、トウミの学生と知り合える楽しみもあります。

大学校には私たち日本人のほかに、多くの国の学生が集まります。私は留学生活の中で様々な人と交流を深め、社会に出てからも求められる積極性や人とかわる力を身につけたいと思います。

授業には現代韓国事情や韓国文化を学ぶ授業・ゼミナールがあります。特に楽しみにしているのは「現地学習」という授業です。

私は韓国の食文化に興味があります。いろいろなものを食べ、いろいろな場所に行って韓国の雰囲気を感じるといい機会だと思っています。

帰国後にはハングル検定の取得を目指し、留学で学んだことを活かしたいと考えています。今回の留学の経験を今後の人生に活かせるように、一杯がんばりたいと思います。

中国コース

文化体験で 学びを深める

太田 大貴（国際文化学科2年）

你好。留学奨学金をいただきます。ありがとうございます。そして、私たち

派遣留学・夏期セミナー参加学生の累計

	アメリカ	ロシア	中国	韓国	カナダ	計
2006年度	13	7	29	14		63
2007年度	17	20	15	13		65
2008年度			31			31
2009年度	14	7				21
以上 海外研修計	44	34	75	27		180
2000年度			30		20	50
2001年度	17	6	15	12	14	64
2002年度	13	3	17	9	17	59
2003年度	11	1	(中止)	4	6	22
2004年度	13	2	31	7	8	61
2005年度	12	5	18	13	22	70
2006年度	7	0	9	5	3	24
2007年度	25	12	16	10	9	72
2008年度	12	9	9	7	13	50
2009年度	12	11	6	4	12	45
2010年度	16	7	10	11	9	53
2011年度	13	7	18	13	4	55
2012年度	14	7	12	7	12	52
2013年度	27	5	10	10	23	75
2014年度	16	18	8	11	10	63
2015年度	21	6	12	13	21	73
2016年度	23	6	10	15	26	80
2017年度	22	8	4	15	12	61
2018年度	17	13	14	6	10	60
2019年度	16	6	11	16	11	60
計	307	132	260	188	262	1,149
合 計	351	166	335	215	262	1,329

の派遣留学のために様々な準備をしていただいてる先生方、学務課をはじめ職員の方々にも感謝いたします。今後とも準備や支援をよろしく願います。

私はこの派遣留学で頑張りたいことが二つあります。一つは、語学力の向上です。私は元々新しいことをしたいと思いい、語学選択のときに中国語を選択しました。最初は、慣れないことばかりで不安になりましたが、やっていくうちに「こんなに一生懸命にやれることはない」と思うようになりましした。この気持ちを忘れず上達できるように取り組んでいきます。

もう一つは、中国文化について学習・体験することです。私は京劇に関心があるので、現地でも体験できない文化の一つでも多くふれることができるように積極的に行動したいと思っています。

留学では、しっかりと気持ちのオンとオフを分けて、まじめに取り組むべきところはまじめに、楽しむところは楽しむつもりです。

つかりと楽しみ、充実した留学にしたいです。

最後に手短ですが中国語で決意表明をさせていただきます。

感謝大家（みなさんに感謝します）。我们会努力的（私たちはしっかりと頑張ります）。谢谢。

カナダコース

多文化都市で学ぶ楽しさ

後藤 瞭太（経営学科2年）

私たちカナダ留学チームは8月4日から約1か月間、カナダのエドモントンに位置するアルバータ大学に行きます。

カナダの人口はおおよそ3700万人。うち3割の人々は他国の出身で、移民を積極的に受け入れています。そのため、多文化主義であり、多くの文化が町中に混在しているとても魅力的な国です。なかでもエドモントンは、西部開拓のために大々的に移民を募集していた歴史があります。カナダと新潟は類似点が多

いことをご存知でしょうか。今年は新潟港開港150周年の年ですが、一昨年はカナダ建国150周年の年でした。また、エドモントンの町にはNorth Saskatchewan Riverがあり、川を中心に発展していた都市という点では、新潟と似ていると思います。なんだか縁を感じずにはいられません。

アルバータ大学では、基本的な言語の授業に加え、カナダの文化・歴史に触れられるカリキュラムも含まれていて、とても充実した学習が出来るのではないかと楽しみにしています。

2019年度のスケジュール表（出発順）

国名／留学大学	留学期間	参加人数
カナダ アルバータ大学	2019年 8月4日～9月1日	経営学科・情報システム学科2・3年 11人
アメリカ セントラル・ミズーリ州立大学	2019年 8月22日～12月13日	国際文化学科 2年 16人
中国 北京師範大学	2019年 8月26日～12月28日	国際文化学科 2年 11人
韓国 慶熙大学校	2019年 8月31日～12月26日	国際文化学科 2年 16人
ロシア ウラジオストク国立経済大学	2019年 9月9日～12月30日	国際文化学科 2年 6人
参加学生数合計		60人

グローバル社会に生きる自覚を

小和田恒氏が学生に温かいメッセージ

本学の開学25周年を記念した講演会が6月8日に本校みずき野キャンパスで開催されました。講師には小和田恒氏（前国際司法裁判所所長、元国連大使）をお迎えし、「21世紀の国際秩序と国際裁判」と題して講演をいただきました。

小和田氏は本学との縁を紹介したあと、「平成の時代は、

平和の裏側で東西冷戦の終結による地域内紛争が勃発」と指摘。グローバル化が進む中で「全体利益の追求から自己利益の追求へ転じるなど方向性を異にする国もあるが、核、環境、疾病、難民問題等、国際問題を解決するための国際秩序の仕組みづくりが急がれる」と述べました。

続いて、「グローバルゼーション（世界が一つの社会）は必然的な社会現象であり、国内社会の安定や秩序の維持、国家間の紛争にも大きく影響

している」と述べました。さらに「グローバル化は一部の国や大都市の現象ではなく、都市や地域を問わない社会の実情」としたうえで、最後に「皆さんはグローバル社会の一員であることを常に認識して生きていってほしい」と、学生に温かいメッセージを贈られました。（企画推進課）

教育の原点をめぐって論議

国際学部がシンポジウム開く

去る6月9日、本学創立25周年を記念した国際学部のシンポジウムを本学新潟中央キャンパスで開催しました。海外研修中の教員を除き、国際学部のすべての教員が参加し、普段の授業において「学生にもっとも伝えたいこと」を各自報告し合いました。国際学部の教員が、相互に授業のエッセンスを紹介し合う初めての経験となりました。

意味を再確認しました。「私たちの教育の目的は、結局は、やさしい人をつくることではないか」といった、教育の原点にかえった議論もなされました。

なお、本シンポジウムの内容は、25周年記念事業の成果として、書籍『平和をつくるための国際研究入門』（仮題）にまとめられ出版される予定です。またこの本には、その前日に開催された小和田恒氏の講演内容も収録される予定です。



開学25周年記念 講演とシンポ

議論は終始白熱、充実し、それぞれの研究テーマや専門分野を超えて、学問や教育の

（国際学部長 佐々木寛）

高校生はじめどなたでもご参加できます！

OPEN CAMPUS 2019

オープンキャンパス2019

2回目 8/4日 10:20▶15:30	3回目 9/1日 10:20▶15:00	4回目 12/8日 13:15▶16:30
-----------------------------------	-----------------------------------	------------------------------------

無料学食体験 **無料送迎バス運行**

会場 新潟国際情報大学 本校 新潟市西区みずき野3-1-1 (JR越後赤塚駅下車 徒歩7分)

参加お申込み 本学ホームページまたは下記までお申込みください。

お問い合わせ先 **入試・広報課** 〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1 TEL 025-264-3777(直) FAX 025-264-3780 E-mail nyushikouho@nuis.ac.jp

※時間やイベントについては、変更になる場合があります。最新情報は本学ホームページをご覧ください。



パネル討論に参加した藤田美幸准教授(右から2人目)と斉藤一貴さん(右端)

新潟の未来を考える「国際化フォーラム『地域と共に!未来へ』」が4月26日、新潟日報メディアシップ(新潟市中央区)で開かれました。本学から情報システム学科4年の斉藤一貴さんと私(藤田)の2人もパネリストとして参加し、詰め掛けた約230人の聴衆とともに、新潟のさらなる発展に向けて意見を交わしました。

広い視野と多様な価値観を 世界につながる体験が大切

造機構(NICO)、新潟日報社の4団体で構成する実行委員会が、新潟港開港150周年を機に本県の国際化を考えようと開催したものです。

川村晃司氏(ジャーナリスト)の基調講演に続いて、「世界人づくり、拠点づくり」をテーマにパネル討論が行われ、本学の2人とERINAで活動する中国人研究者や海外で事業展開する企業関係者ら4氏が登壇、それぞれの立場から課題を挙げて意見を交わしました。

斉藤さんは昨年海外で開催された「日本食展示会」に同行した体験を踏まえ、「実用性の高い英語教育が大切で、世界につながる体験をすることが重要だと思う」と述べ、私は「語学だけでなく歴史文化や政治に関する教育も充実させているが、広い視野と多様な価値観を持てるよう一層人材教育に努力したい」と、本学の目標について報告しました。

(地域連携委員長
経営学科 准教授

藤田 美幸)

晴れ渡る空 光る汗



サッカーなど3競技で熱戦を繰り広げる選手たち

令和初となる本学スポーツ大会が6月1日、本校みずき野キャンパスで開催され、バレーボール、バスケットボール、サッカーの3競技に、約400人が参加、晴れ渡る青空の下で優勝を目指し熱戦を繰り広げました。

スポーツ大会に400人

順位を決める3競技以外でもストラックアウトに人気が集まり、およそ40人の学生が楽しそうにボールを投げる姿が見られました。

(スポーツ大会実行委員長
情報システム学科
2年 小島匠真)

どの競技も盛り上がり、大きなトラブルもなく終了し、熱気に包まれた一日となりました。

来年度は今回の反省点を活かし、さらに盛り上がるよう、そして参加者にとって良い思い出が残るイベントになるよう努力していきたいと思っています。

各競技の1位チームは次の通り。

▽ソフトバレーボール(1年) 西山ゼミ ▽同(全学年) ぱっとばつまるくん ▽バスケットボール(全学年) 噛ませ犬 ▽サッカー(全学年) BFC

韓国・光云大学校から留学生



左から2人目がイさん、4人目がシンさん(高田公園)

韓国の光云大学校(ソウル特別市)から、今年も2人の交換留学生を迎えました(昨年は3人)。留学生は3月26日に来日し、4月10日に国際交流センターで歓迎会が開かれました。閉会後には上越市の高田公園で日本三大夜桜を見物し、高田城址のお堀端の華やかな桜並木を、本学学生と一緒に楽しみました。

李 承根(イ スンウン)さん 光云大学校東方アジア文化産業学部3年 「たくさん学び、たくさん遊んで、後悔のない1年間にしたいと思います」 申 珠熙(シン ジュヒ)さん 光云大学校東方アジア文化産業学部3年 「日本語はもちろん、日韓相互の発展のために、文化や歴史について研究していきたいです」 (学務課)

心理学ゼミ

経営学科 准教授 佐々木 宏之

経営学、情報システム、語学、国際関係の専門家が多く在籍する本学では、心理学ゼミは変わり種の研究室です。そもそも心理学の専門家には変わり者が多く、かく言う私も人と違ったことがやりたいという考えから心理学専攻を目指しました。私のようにちよつと変わったことをやってみたいという気持ちを抱いている学生は、心理学ゼミで卒業研究に取り組めば満足いく成果が得られるかもしれません。

2年の応用ゼミナールは心理学ゼミ入門編です。データ分析に必要な統計処理の技術と論文読解に必要な英語力を身につけるトレーニングを行います。もちろん統計と英語は心理学以外のゼミでも役に立つスキルです。

3年で正式に心理学ゼミに配属されると、実践的な調査活動が始まります。第1の調査では、グループで考えたテーマについてアンケートを実施し、収集したデータを使った多変量解析という高度な分析を行います。第2の調査では、赤字で書かれた「みどり」のように矛盾した情報の認識について実験を行います。



多様な卒業研究で学会発表も

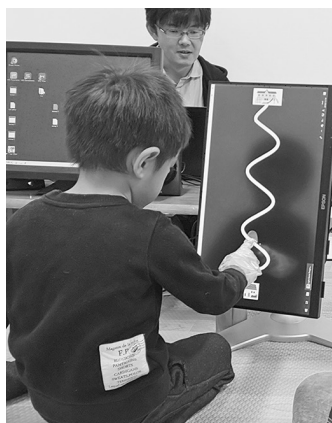
「BGMとギャンブルの関係」「サッカーPKの分析」

第3の調査では、絵本「ウォーリーをさがせ」を模した実験から視覚情報処理の性質を探ります。

4年になるといよいよ各自テーマを定め、実験アンケート、インタビューなどの調査方法を駆使して研究を行います。昨年度の卒業研究の例をあげると、「BGMがギャンブル行動に与える影響」、「サッカーW杯のPKの分析とPK実験」、「化粧アプリを用いた化粧の自己評価・他者評価」といったように、研究テーマはバラエティに富んでいます。

基本的には学生の自由な発想から研究に着手しますが、決して素人研究では終わらせません。BGMの研究は今年の日本心理学会で、PKの研究は東北心理学会で発表が予定されるなど、学術的にも意義のある研究になるよう指導します。これまでゼミ生の卒業研究が国際専門誌に掲載された実績もあります。

私の夢は学生の卒業研究が「イグノーベル賞を受賞することです。私の夢を叶えてくれる学生が心理学ゼミの門戸をたたいてくれるのを待っています。



子どもの心を調べる実験の様子

「信濃川感謝祭2019 やすらぎ堤川まつり」が5月3日から5日までの3日間、新潟市中央区のNST(新潟総合テレビ)

本社と同社前の信濃川やすらぎ堤で行われ、本学からも情報システム

学科の教員2人、学生4人、新潟中央キャンパス職員3人による「プログラミング体験ブース」を出展しま

した。

ブースではScratch、Viscuit、迷路プログラミングなど直感的にプログラミングを体験できるコーナーと、プログラミング教室の2つのイベントが

平行して行われ、3日間で小学生とその保護者ら約400人が来場してにぎわいました。

プログラミング体験に400人 やすらぎ堤 川まつり

情報システム学科



小学生とその保護者でにぎわった体験ブース

・(2019年3月15日)「Les relations nippon-coréennes autour de la domination coloniale [植民地支配からみた日朝関係]」*「植民地支配および脱植民地化の比較研究、植民地化—フランス・アルジェリア関係と日朝関係をめぐって—」プロヴァンス政治学院、新潟国際情報大学(フランス・プロヴァンス政治学院)

3) 競争的資金獲得研究

越智 敏夫(国際文化学科・教授)

・(2016年4月より継続～2021年3月) 2019年度科学研究費助成事業基盤研究(C)「日本における政治学リーディングズの不在とその克服：比較政治学的検討」

佐藤 若菜(国際文化学科・准教授)

・(2019年4月～2023年3月) 科学研究費助成事業・若手研究「中国貴州省のミャオ族社会における「伝統的」衣装製作の再考」
・(2019年4月～2020年3月) 科学研究費助成事業・研究成果公開促進費「衣装と生きる女性たち」
・(2019年6月～2020年5月) 公益財団法人村田学術振興財団・研究助成「1978年以降の日中民間交流に関する人類学的考察：ミャオ族の民族衣装に着目して」
・(2019年4月～2024年3月) 科学研究費助成事業・基盤研究(B)「ファシズム期における日独伊のナショナリズムとインテリジェンスに関する人類学史」(研究分担者)
・(2018年4月より継続～2021年3月) 国立民族学博物館・共同研究「人類学/民俗学の学知と国民国家の関係：20世紀のナショナリズムとインテリジェンス」(共同研究者)

矢口 裕子(国際文化学科・教授)

・(2019年4月～2021年3月) 2019年度科学研究費助成事業基盤研究(C)「『無削除版日記』以降のアナイス・ニン——パリンペストとしての再読」

山田 裕史(国際文化学科・准教授)

・(2019年4月～2023年3月) 2019年度科学研究費助成事業基盤研究(A)「体制移行の比較解剖学：グローバリズム下の社会レジーム再編に関する総合的研究」(研究分担者)

吉澤 文寿(国際文化学科・教授)

・(2019年4月～2024年3月) 2019年度科学研究費助成事業基盤研究(C)「日韓会談反対運動に関する日常史研究—日本朝鮮研究所事務局長の日記分析を中心にして—」
・(2019年4月～2020年2月) 2019年度科学研究費助成事業研究成果公開促進費「歴史認識から見た戦後日韓関係—「1965年体制」の歴史学・政治学的考察」(応募者(編著者))

4) 委員・社会的活動・記事・その他

越智 敏夫(国際文化学科・教授)

・(2019年4月1日より新規～) 魚沼市男女共同参画推進委員(魚沼市役所)

佐藤 泰子(国際文化学科・講師)

・(2019年6月21日～7月19日) 新潟県シニアカレッジ新潟 実践講座(12単位)「まちかどふれあ英会話」コース講師(新潟県社会福祉協議会・新潟ユニゾンプラザ)

山田 裕史(国際文化学科・准教授)

・(2019年4月～2020年3月) 「権威主義体制下の地方議会選挙」研究会委員(日本貿易振興機構アジア経済研究所)
・(2019年4月～2021年3月) 「東南アジアの選挙監視と政治体制に関する比較研究」研究会委員(京都大学東南アジア地域研究研究所)

2020年度 入学者選抜試験概要（要約一覧）

全てインターネット登録を利用した出願です（指定校制除く）

※変更が生じる場合もありますので、詳細については「入学試験要項」で必ずご確認ください。

入試区分	募集人員	インターネット出願登録期間	出願書類提出期間	試験日	試験地	試験実施教科・科目	合格発表日
推薦入学試験	指定校制	国際学部 国際文化学科 30 経営情報学部 経営学科 35 情報システム学科 25	2019年11月1日 2019年11月9日 【郵送必着】			本学が指定校と定めた高校長あてに推薦依頼を行います。 ※指定校制はインターネット登録を利用した出願ではありません。	
	公募制 (併願可) 過年度卒可 ・教科成績重視型 ・資格・検定重視型 ※対象資格・検定は「入学試験要項」で確認してください。	国際学部 国際文化学科 10 経営情報学部 経営学科 5 情報システム学科 5	2019年11月1日 2019年11月8日 15:00まで	2019年11月1日 2019年11月9日 【郵送必着】	2019年11月17日	新潟 〈教科成績重視型〉面接・小論文 推薦要件：全体の評定平均値3.5以上または、国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語(英語)のうち、いずれか1教科の評定平均値が4.0以上であること。 〈資格・検定重視型〉面接・小論文 推薦要件：本学が定めた資格・検定に合格、あるいは成績を修め、かつ全体の評定平均値が3.2以上であること。	2019年11月22日
	公募制 スポーツ推薦	国際学部 国際文化学科 経営情報学部 経営学科 情報システム学科	若干名			面接・小論文・競技実績 推薦要件：全体の評定平均値3.2以上。規定の競技大会に出場し、一定以上の成績を満たしていること。 ※対象各科目は「入学試験要項」で確認してください。出場競技大会、成績等の基準について出願前に必ず入試広報課へお問い合わせください。	
	前期 (第3志願制)	国際学部 国際文化学科 45 経営情報学部 経営学科 35 情報システム学科 25	2020年1月6日 2020年1月20日 15:00まで	2020年1月6日 2020年1月21日 【郵送必着】	2020年2月2日(日)	新潟 上越 長岡 新発田 ・国語：国語総合(古文・漢文を除く) ・数学：数学Ⅰ・数学A ・外国語：コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ・英語表現Ⅰ、Ⅱ 上記3教科の中から2教科または3教科を選択(3教科受験した場合は高得点の2教科を合否判定に使用)。	2020年2月12日(水)
	大学入試センター試験利用	国際学部 国際文化学科 10 経営情報学部 経営学科 5 情報システム学科 5	2020年1月27日 2020年2月10日 15:00まで	2020年1月27日 2020年2月12日 【郵送必着】	2020年1月18日(土) 19日(日)の大学入試センター試験を受験していること	個別の学力検査等は行わず、2020年度大学入試センター試験の成績で判定。 【国際学部】国際学部の利用教科・科目の中から外国語と、外国語以外の1科目以上選択。各教科100点(外国語と、外国語以外に2科目以上受験した場合は高得点の1科目を合否判定に使用。国語は近代以降の文章のみ利用。外国語(英語)はリスニングを含む。) 【経営情報学部】経営情報学部の利用教科・科目の中から2科目以上選択。各教科100点(3科目以上受験した場合は高得点の2科目を合否判定に使用。国語は近代以降の文章のみ利用。外国語(英語)はリスニングを含む。) ※各学部で利用教科・科目は異なりますので「入学試験要項」で確認してください。	2020年2月22日(土)
一般入学試験	後期 (第3志願制)	国際学部 国際文化学科 5 経営情報学部 経営学科 5 情報システム学科 5	2020年2月25日 2020年3月2日 15:00まで	2020年2月25日 2020年3月3日 【郵送必着】	2020年3月9日(月)	新潟 一般入学試験前期と同様。	2020年3月16日(月)
	帰国生入学試験 外国人留学生入学試験 社会人入学試験	国際学部 国際文化学科 経営情報学部 経営学科 情報システム学科	若干名 2019年11月1日 2019年11月8日 15:00まで	2019年11月1日 2019年11月9日 【郵送必着】	2019年11月17日	新潟 面接・小論文	2019年11月22日

入学時の奨学金

高校長推薦 入学試験合格者

合格後に希望者に対し2月23日(日)「奨学金試験」を実施し、その結果、成績上位者に半期授業料の半額を給付します。

一般入学試験(前期) 受験者

一般入学試験(前期)の試験結果から、上位成績者に半期授業料の半額を給付します。

◎入試と奨学金の詳細については入試・広報課までお問い合わせください。TEL025-264-3777(直) FAX025-264-3780 E-mail nyushiweb@nuis.ac.jp

私は前・後期の授業の第1回目に、必ず次のことを学生に申し渡す。①授業中私語をするな、②寝ていても起こさない、③帽子をかぶって授業を受けるな。いずれも、教師に無礼な態度をとるなどと言っている、ともとれるが、そういうつもりではない。計算の仕方(モデルの作り方)にもよるが、本学では授業1コマ(90分授業1回分)当たり約4,300円を学生が支払っていることになる。私語をしたり、欠席、遅刻で、自分の4,300円を無駄にしている周りの学生が、授業を聴くために出席している周りの学生の邪魔をして、その学生の4,300円を無駄にすることなどあつてはならない。「授業中に私語をしたくなったら、教室を抜け出て外で思いっきり話してから戻ってこい。それでもかまわない」とも言っている。

ただし、自分で自分の権利を放棄して、授業中に居眠りをしている学生の面倒は見ない。

最近のTVなどを見ると、帽子をかぶったまま話をしている場面を多く見かける。タレントなどはそれが仕事着なのであろう。しかし、未だにある年代以上の社会人(大人)は、帽子をかぶったまま話をされると無礼であると感じるはずである。着帽しての授業禁止は、社会に出る前の訓練だと思っている。

私が子供の頃は、親や周りの大人から「他人に迷惑をかけることはできるだけしないように」と教わった。今、そのような注意をすることは少ないのではないかと思う。しかし、社会生活を円滑に進めるためには、「他人にできるだけ迷惑をかけないように」は重要な社会規範である。「授業中の私語禁止」はそのための訓練だとも思っている。

湧源

入試・広報委員長 西山 茂
編集後記に代えて

教員の活動（本人申告による）

1) 研究論文・図書

區 建英(国際文化学科・教授)

・(2019年6月)「丸山眞男思想史の軌跡」中国社会科学院日本研究所『日本学刊』2019年第3期(136-166頁)

小林 満男(情報システム学科・教授)

・(2019年4月)監修 高橋正泰 編 竹内倫和・福原康司「人的資源管理」『経営組織論シリーズ2 ミクロ組織論』学文社(195-213頁)

瀬戸 裕之(国際文化学科・准教授)

・(2019年2月)「2015年のラオス憲法改正に関する一考察－人権関連の法規定を中心に－」『社会体制と法』第16・17合併号(32-52頁)

藤本 直生(国際文化学科・准教授)

・(2019年) John Adamson, David Coulson & Naoki Fujimoto-Adamson "Supervisory practices in English-medium undergraduate and postgraduate applied linguistics thesis writing: Insights from Japan-based tutors.", Asian Journal of Applied Linguistics (14-27)

Circuits/Systems, Computers and Communications(大韓民国・済州島)

越智 敏夫(国際文化学科・教授)

・(2019年5月9日～10日) "The Reversion of Democracy: Basic Methodologies of Political Science in Postwar Japan and the US.", Modern Japan in the Comparative Imagination Conference (Durham University, UK)
・(2019年5月31日)「ド・ブロカ『まぼろしの市街戦』について」第29回にいがた国際映画祭(クロスバールにいがた)

佐藤 若菜(国際文化学科・准教授)

・(2019年5月25日)「収集・分析・撮影・展示される民族衣装：日本が中国少数民族文化に与えた影響に着目して」国立民族学博物館共同研究会「伝統的織物の生産と消費：文化遺産化・観光化によるローカルな意味の変容をめぐって」(国立民族学博物館)

藤本 直生(国際文化学科・准教授)

・(2019年5月17日～19日) John Adamson & Naoki Fujimoto-Adamson "Translanguaging in a Japanese tertiary context", JALT PanSIG Conference(甲南大学)

山田 裕史(国際文化学科・准教授)

・(2019年5月25日)「カンボジアにおける権威主義体制の強化と2018年総選挙」東南アジア学会関西例会(京都大学)

吉澤 文春(国際文化学科・教授)

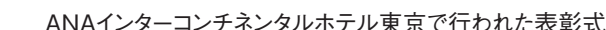
・(2018年11月16日)「1980年代の日韓歴史認識問題－『藤尾発言』をめぐって」国民学校日本学研究所「韓国関係研究の新地平」(韓国・国民学校日本学研究所)

2) 学会・研究会・講演等

石川 洋(情報システム学科・教授)

・(2019年6月24日～26日) "A Simple example of Refactoring codes with modifying Class Diagram using an Eclipse plug-in", The 34th International Technical Conference of

団体の部



教育レベルの高さ 全国にアピール

できました。これ

までも2015年度と2016年度には奨励賞を受賞しています。

4年に国際学部を新設して「英語基礎Ⅰ、Ⅱ」を開講し、文科省の「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画（平成25年12月）」に沿って英語資格の取得を奨励しています。

年3回の英語検定のうち1回以上の受験を学生に奨励、国際学部留学生は1年から4年まで英・露・中・韓語の選択言語に問わず、希望者が英検を受験して再度の受賞となりました。

（国際文化学科）
講師 佐藤 泰子

貴重な通訳体験

国際文化学科の5人

私たち国際
文化学科の5
人（3年2人、
4年3人）は、

5月11日、12日の2日間、朱鷺メッセ（新潟市中央区）で行われた「G20新潟農業大臣会合」にボランティア

アとして参加しました。

まず各国の代表団が来場した際、小学生による歓迎の花束贈

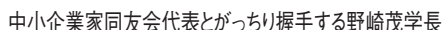
いつもの友達と会話をするような英語とは違い、より丁寧な英語で会話をしなくてはならなかったため、とても緊張しました。さらに、難しい単語や言い方などを覚えなくてはならず大変でしたが、同時に新しい知識を身につけることができ、とても勉強になりました。

ボランティアを通して感じたことは、長い時間入念に準備す

会合参加者への花束贈呈で通訳をする塩原聖奈さん(左)

5 大学が中小企業団体と協定
協働事業で産学連携へ

新潟SKYプロジェクト・新潟県中小企業家同友会
連携協定に関する協定締結式



本学および新潟青陵大学、同
 大短期大学部、新潟薬科大学、
 新潟工業短期大学の5校で取り
 組んでいる連携事業「新潟SK
 Yプロジェクト」と、新潟県中
 小企業家同友会が連携協定を結
 ぶ締結式が、5月15日に本学新
 潟中央キャンパスで行われまし
 た。

この協定は協働事業の実施お
 よび教育研究に関すること、相

互が実施する事業への協力および支援に関すること、人材育成に関すること—などを連携・協力の柱としています。それぞれの特色を活かした研究成果や人材を活用して緊密かつ組織的な連携・協力体制を充実させ、人材育成や教育研究の発展、県内地域産業の発展に寄与することを目的としています。

締結式には本学の野崎茂学長をはじめ各大学、短期大学の学長と同友会の代表理事が協定書にサインをし、固い握手を交わしました。

（企画推進課）

(企画推進課)